



非農業者との連携と担い手農業者の育成・確保

平地農業地域



キーワード

構造改革の後押し等
地域農業への貢献

よこてしよこてちいきのうち・みず・かんきょうほぜんそしき

よこてし

横手市横手地域農地・水・環境保全組織

(秋田県横手市)

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積2,643ha
(田2,631ha、畑12ha)
- ・資源量 水路925km、農道355km
ため池47箇所
- ・主な構成員 農業者個人、
女性会、土地改良区 等
- ・交付金 約134百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化や後継者不足により、維持管理活動への参加者も年々減少傾向にあった。また高齢化に伴う、共同活動中の事故も増えている状況である。
- 土地改良区管内においては、ほ場整備による大区画化や農地利用集積により作業効率の向上はしているが、若手の担い手が少ないため、今後の地域農業を考えると人材の確保が課題であった。

【土地改良区管内ほ場整備の様子】



ほ場整備施工前

ほ場整備施工後

取組内容

- 当組織は活動隊(8地区)に分かれて地域保全に取り組んでいる。農家負担の軽減を図るために、非農業者の協力を得ながら地区内の泥上げ、草刈り、清掃活動等を継続的に行っている。
- 年度末には、次年度の計画や、将来の地域農業の発展についてなどを話合ってもらうための場を設け、地域コミュニティの向上図っている。

【地域住民の活動の様子】



泥上げ

地域住民による話し合い

取組の効果

- 令和4年度は農家、非農家を合わせて、延べ10,198名の共同活動へ参加を頂いた。
- 景観に優れた農村地域の維持・管理を地域住民が中核となり行っている。



畦畔の草刈り



花壇への植栽

- 学校教育等との連携を図り、田植え、野菜や花の植栽を行い、野外学習や生命を育てる体験に取り組んでいる。



プランターの植栽



サツマイモの植付け

- 草刈りや泥上げ活動を行うことにより、維持管理への負担が軽減され、担い手の育成(新規法人の設立・法人への若手の参加)へ繋がっている。



絶滅危惧種の保全・啓発

平地農業地域



キーワード

連携
教育機関との

生態系保全、環境保全
型農業に関する取組

だいせんしなかせんなんぶこういきかつどうそしき

大仙市中仙南部広域活動組織

だいせんし

(秋田県大仙市)

- 本地域は、地域の動植物種の保全のため、生態系保全池を創出し、地元小学校と連携して児童による池の生態系調査に取り組んでいる。
- この活動を地域環境の豊かさを啓発する機会として設けてきたが、地域に生息する固有種イバラトミヨの個体数の増加は確認できていなかった。
- 本交付金の活動として、大仙市と連携しイバラトミヨの営巣・生育環境となる水草の移植を行うことで、平成27年には前年の3.5倍の個体数の増加が確認された。今後、地域環境の学習の場として更なる活用を検討。
- 看板設置などの普及啓発活動により地域全体の環境保全活動への意識が向上し、農業環境の保全に寄与。

【地区概要】※R4年度時点

- ・ 認定農用地面積549ha
(田549ha)
- ・ 資源量 水路98km
農道9km
- ・ 主な構成員 農業者個人、
土地改良区 等
- ・ 交付金 約30百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、秋田県内においては雄物川水系に固有である絶滅危惧種トミヨ属雄物型(通称:イバラトミヨ)が生息している。
- 平成12~25年度までは場整備事業を実施しており、平成17年度には地域の動植物種を保全するための生態系保全池を創出しているが、イバラトミヨの個体数増加が確認できていなかった。
- 水草の移植を行い、イバラトミヨの営巣・生育環境の整備を試みるが水草が定着しなかった。



絶滅危惧種のイバラトミヨ

取組内容

- 大仙市と連携し、水草が定着しない原因を調査。水深が深く日光が届かず、また水草と土壌の相性が悪かったために、平成26年度にコンクリートフリーウムを利用した浅瀬を創出し、水草の移植を行った。
- 地元の小学校と連携し、小学生による生態系調査を実施し、地域環境の豊かさを啓発に取り組む。
- イバラトミヨの啓発看板を作成し、生態系保全池前に設置。



フリーウムを利用した水草移植

取組の効果

- 令和2年度以降は感染症対策のため生態系調査は実施できていないが、生育環境の改善により、イバラトミヨの生息が継続的に確認されている。
- 小学生から希少種の生息を含め地域資源に興味を持ってもらうことによって、周辺農地の保全に対する意識の醸造が図られている。



小学校と連携したイバラトミヨの生息調査